

◇ 教員免許更新講習シラバス(必修領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

<R002>

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
教育の最新事情 ※R001、R003、R004と同内容です		全教員	6H	インターネット講習 (オンデマンド型)
開設期間		講師名(所属・職名等)		
令和3年8月11日～10月11日		前田 康二 (奈良教育大学・教授) 赤沢 早人 (奈良教育大学・教授) 山本 敏久 (奈良教育大学・教授) 粕谷 貴志 (奈良教育大学・教授)		
定員				
155人				
【小テーマ①】	項目	国の教育政策や世界の教育の動向		(担当講師: 前田 康二)
	内容	○国の教育政策 ○世界の教育の動向		
講習形態	講義形式			
講習内容	国際学力調査などの統計や資料を参考に、日本の教育改革について、世界の教育の動向を踏まえながら客観的に理解する。さらに各種の報道や資料から、学校を取り巻く状況の変化を読み取り、分析、考察を行う。			
到達目標・確認指標	学校を巡る近年の様々な状況変化について、客観的かつ具体的に理解している。各種報道、世論調査、統計の動向等を分析・理解し、説明することができるか。			
キーワード	教育改革、中央教育審議会、PISA、育成すべき資質・能力			
【小テーマ②】	項目	教員としての子ども観、教育観等についての省察		(担当講師: 赤沢 早人)
	内容	○子ども観、教育観等についての省察 ○教育的愛情、倫理観、遵法精神その他教員に対する社会的要望の強い事柄		
講習形態	講義形式			
講習内容	社会状況の変化に伴い、教員に求められる資質能力は変動している。私達は、教職に関する不易と流行を見定めるとともに、教員としてのあり方についての今後のビジョンを明確にしていかなければならない。本講義では、学習指導要領や中央教育審議会答申などの資料を元に、現代の我が国の教員に求められる資質能力を整理するとともに、とりわけ「学び続ける教員」ならびに「職能成長」という観点から、教員としてのあり方について考察を深める。			
到達目標・確認指標	教員に国民が何を期待しているか、理解している。各自の現状を自ら分析し、自らが向かうべき方向を明確に意識し、説明できるか。			
キーワード	資質能力、不易と流行、学び続ける教員、職能成長、Society5.0、カリキュラム・マネジメント			
【小テーマ③】	項目	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)		(担当講師: 山本 敏久)
	内容	○子どもの発達に関する、脳科学、心理学等の最新知見に基づく内容 ○特別支援教育に関する新たな課題(LD、ADHD等)		
講習形態	講義形式			
講習内容	特別でない特別支援教育の在り方について、今次改訂された学習指導要領の趣旨を踏まえながら考察する。とりわけ、「発達障害」による様々な困難さを「脳の多様性」によるものと考えたとき、「適切な指導」及び「必要な支援」はどうあるべきか具体的な事例を交えて問いたい。併せて、インクルーシブな社会を目指すために「教育」の果たすべき役割、卒業後を見通した就学指導・相談支援の在り方を俯瞰する。			
到達目標・確認指標	子どもの発達に関する最新の科学的知見の概要を理解している。LD、ADHDはじめ特別支援教育に関するものも含め、子どもの発達に関する最近の科学的な課題を理解し、説明できるか。			
キーワード	特別な教育課程、個別最適化、インクルーシブ教育システム、合理的配慮、ICF			
【小テーマ④】	項目	子どもの生活の変化を踏まえた課題		(担当講師: 粕谷 貴志)
	内容	○居場所づくりを意識した集団形成 ○多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割 ○生活習慣の変化を踏まえた生徒指導 ○カウンセリングマインドの必要性		
講習形態	講義形式			
講習内容	社会の変化にともなって、子どもの社会性や心理社会的発達の様相に変化が現れてきており、対応は難しさを増している。学級集団も、個々の子どもたちの変化をうけて、実態に大きな変化が生じてきており、従来の学級経営の方法では対応が難しく、学級崩壊などの問題が顕在化してきている。近年の子どもたちの変化は、学習不足という視点からだけではなく、発達の問題として捉えて対応していく必要がある。本講座では、子どもたちの変化の実態とその背景についての理解および変化に対応する教育実践の視点について概説する。その中で、児童生徒の実態把握の方法と実態把握にもとづいた心理教育的援助の方法、および集団づくりが果たす役割について、実践事例と結びつけながら理解を深める。			
到達目標・確認指標	子どもの生活の変化を踏まえた指導の在り方を理解している。子どもの生活の変化を踏まえた、具体的な指導上の課題及び対処方法を理解し、説明できるか。			
試験方法	各小テーマの最後に10分程度の筆記試験を行う。			
成績評価の方法・基準等	演習課題及び試験の成績で判断する。(演習課題10点＋試験15点×4テーマ＝100点満点) 評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。			